

ゆのさや農園

親のススメで農業学校に進学し、初めて鋤を握ったのは15歳の時でした。それも既に24年も前の事になります。

そのままの流れで農園に就職し、21歳頃までの青春の時期を毎日畑で農薬散布して過ごしていた僕にとっての「農業」とは、キツイ、キタナイ、危険、その上儲からない、「将来絶対にやりたくない職業」のダントツのナンバーワンでした。

まだ、僕を含めた殆どの人が「有機」だの「オーガニック」だのという言葉を耳にする機会の無かった頃の話です。その反発心から離農して「本当にやりたい仕事」を探し色々な仕事にチャレンジしました。

土木や建築、水道、行商、製材、ガス配管：：でも、これだ！という所まで中々辿り着けずにいる中で7年前に富士宮の有機農業の会社に就職しました。



富士宮に来たばかりの頃



色々な種類の野菜を栽培しています

しかし、この就職は20年前のものとは全く違ったものでした。違いと言えば農薬を使わない、化学合成肥料を使わない、この2点位なのですが、こうして生産される「有機野菜」が消費者から評価され、求められている。もはや農業は「カッコイイ」もの、会社にはTVや雑誌の取材が殺到し、沢山の注文が入ってきました。

昔から農業に携わってきた僕自身が目から鱗でした。農薬や化学肥料を使わなくていいなら生産者としても安心して栽培出来るし自信を持ってお勧め出来る。そして振り返ってみると自分には農業のキャリアがある。「百姓」と云う位で今までしてきた全ての職業が活かせる。そして今有機野菜は求められている。これだと思えました。

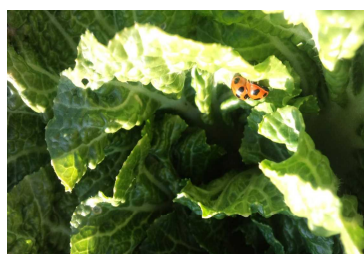
勿論農薬や化学肥料を使わない苦労も有りますが、今はこの仕事を続けていく事に迷いは無くなりました。僕の住んでいる柚野地区は見渡す限り棚田が広がっています。この長閑な雰囲気が好きで柚野で就農する事に決めました。

「ゆのさや」という屋号も地元の方に親しんでもらえる様、地元の方言の「さや」と「柚野」を組み合わせてつけました。そのお陰か地元の方とお酒を飲む機会も増えました。

妻と娘、犬と合鴨と暮らしながら農業を営む今の暮らしには、経済的には敵しさも有りますが豊かな気持ちで暮らせている事に掛け替えの無いものを感じます。

柚野で産まれた娘の「美味しい」は何よりの励みになっています。

(2015年10月記)



沢山の生き物が住んでいる畑を目指しています

ゆのさや農園 片山 康嗣

就農:平成24年4月 畑の場所:富士宮市 柚野
栽培面積:畑85a 田10a 栽培作物数:80種類
主力作物:人参、トマト、ナス など
連絡先:www.yunosaya.com/

